

LIBRARY



期末テストお疲れ様でした。結果はさておき、一息ついてください。ね。激動の2023年もあと1ヶ月です。年が変わると、心機一転できそうな気がする私たち。ただし行動が伴わないと元の木阿弥？

『ルール』 工藤純子著 講談社 2023



学校帰りにスマホを使ってしまったばかりに、生活指導の三崎先生に没収されてしまった知里。形だけの反省文に何の意味があるのかと思いつつ、所定の文字数を埋め職員室に。ところが三崎先生はそれを声を出して読むことを強要した。屈辱に耐えかね「スマホはいりません！」と職員室を飛び出した知里。日ごろからイミフな校則に納得できない知里ら文藝部員は、書き手がなくて先生から頼まれていた「中学生の主張」のテーマを校則にして、早速全校生徒にアンケートを実施しようと校門に立ったけれど…。著者が「校則」に真正面から取り組んだ意欲作。巻末にある校則をめぐる座談会も必読！

『ぼくらは星をみつけた』 戸森しるこ著 講談社 2023



「住み込みの家庭教師募集、男性歓迎」の文字に応募してみたら無事採用された岬。職場は、丘の上のお屋敷。すでに故人となった著名な天文学者桐岡博氏の妻桐岡そらさんが、息子である10歳の星（せい）と住む家だ。通いの庭師ターシャと、やはり住み込みのハウスキーパーがいる桐岡家。ある日岬は博士が亡くなったのは15年前と知り、星は養子だと知る。この家に関わる人々には、誰にも言えない秘密があることに気づく岬。そして岬自身にも秘密が…。

『藍色時刻の君たちは』 前川ほまれ著 東京創元社 2023



「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことはありますか？本来なら大人がやるべき家事や家族の世話を日常的に行っているこどものことを言います。この本の主人公は、統合失調症の母と脳梗塞で倒れた祖父を持つ高校生小羽。介護と家事に忙殺され鬱屈した思いを抱える小羽に、寄り添ってくれるのがこの町にやってきた青葉という女性。ところが東日本第震災がすべてを一変させてしまう。それから10年の月日が流れ…。自身も看護婦として働きながら小説を書いている著者けに、リアルな描写が続き、正直読むのが辛いのですが、ぜひあとがきまで読んでほしい1冊です。

『リカバリーカバヒコ』 青山美智子著 光文社 2023



新築分譲マンションアドヴァンス・ヒルの近くにある公園には、所々ハゲかかったピンクカバがいる。知る人ぞ知る、これは「リカバリーカバ」なのだ。カバをなでると体や心の不調が改善されるとまことしやかにつぶやかれている。リカバリーカバをめぐる連作短編集の主人公は、マンションに引っ越してきた成績が下がった高校生、話下手な若い母親、足が遅いことに悩む小学生、耳管開放症になって休職中の女性、老眼の五十代男性編集者……。それぞれの悩みが丁寧に描かれる。実は著者自身も、この物語を執筆中に体調を崩してしまったそう。編集者からは、最終話を、リカバリーした青山さんがどんなふうにかきかいたのか楽しみと言われたそうです。気になりませんか？

『ノベルダムと本の虫』 天川栄人著 KADOKAWA 2016



先日、この本の著者のお話をオンラインで聞く機会がありました。岡山出身で京都大学に進学した当時は、理系だったのに、途中で進路を変え英米文学を専攻したそうです。今年出版された『セントエルモの光』は、天文少女だった天川さんらしい作品でした。学生時代に作家をめざした天川さん、第13回角川ビーンズ小説大賞に応募。576本の中から、審査員の高評価の声を受け特別に設けられた〈審査員特別賞〉を受賞したのが、『ノベルダムと本の虫』。実は親しくさせて頂いている岡山の元司書教諭の先生のご主人が高校時代の担任だったというご縁。で、絶対おススメと言われたのがこの作品です！

『かなしみとともに生きる』 本郷由美子著 主婦の友社 2022



大阪教育大学附属小学校で児童殺傷事件が起きたのは2001年のことです。著者の本郷由美子さんは、この事件で小2の愛娘、優希さんを失い、深いかなしみ・怒り・憎しみの感情のなかで生きてきました。しかし一方で「グリーフケア」「スピリチュアルケア」と呼ばれる喪失体験によるかなしみや生きづらさに寄り添う活動を行うことで、新たな一歩を踏み出す勇気も得たのです。それを1冊の本にまとめてみたいという気持ちになり、生まれた本です。

『日本史サイエンス』 播田安弘著 講談社ブルーバックス



この本は3つの謎を取り扱っています。最後のひとつが、「戦艦大和は無用の長物だったのか？」著者は船の設計者であって歴史家ではないのですが、当時のデータをできるだけ集めて分析を試みます。マンガ『アルキメデスの大戦』が映画化されたときも、協力しています。エンジニアが「数字」を駆使して挑む日本史！今年ブルーバックスシリーズは創刊60周年です。この他にもブルーバックス編集者がイチオシの本を多数入れました。ぜひ手に取ってみてください。

『出世と恋愛：近代文学で読む男と女』 斎藤美奈子著 講談社



斎藤美奈子さんが、近代文学の謎をバツサリと解いてみせる。男性作家によって書かれた青春小説の王道は、①主人公は田舎から出てきた青年 ②彼は都会的な女性に魅了される。③そして彼は何もできずに、結局フラれる。(上昇志向の強い女性はより条件のいい男を選ぶ！) 恋が実った場合は、肺病で女性が死んでしまう。やがて女性の書き手による青春小説が現れ、当然これまでとは違う展開が…。キラキラした出世や恋愛があまり流行らなくなった現代でも、「好きな人の心を射止めたい」と思うのは人の自然な気持ち。若者よ、近代文学を読まないなんてもったいないよ、と著者は語る。

『アザハタ王と海底城』 写真・高久至/ぶん・かんちくたかこ



この絵本をつくった写真家の高久至さんは、2歳からの筋金入りの海大好き人間。17年間海に潜って撮り続けた、世界中の海でいろんな生き物と出会ったけれど、アザハタほどはたらきものの王様には会ったことがないそうだ。それってどういうことかな？海底城って何？そう思ったら、ぜひこの絵本の手に取ってほしい。国民である小魚をパクパク食べちゃうんだけど、多少の犠牲はやむなしなのか？

11月にはいった本の一部です。リクエストは常時受け付けています。

登録番号	NDC	書名	著者名1	出版者	出版年
039403	0140	図書分類からながめる本の世界	近江哲史	図書館協会	2010/12
039429	151M	14歳からの個人主義	丸山俊一	大和書房	2021/11
039434	289K	六市と安子の“小児園”	大倉直	現代書館	2017/06
039435	312K	絵で旅する国境	クドル 文	文研出版	2022/11
039452	316B	黒人の歴史	ブライデン他	河出書房新社	2023/07
039420	361K	あなたを丸めこむ「ずるい言葉」	貴戸理恵	WAVE 出版	2023/07
039428	3610	言葉と心の切りかえ術	大野萌子	笠間書院	2023/06
039430	361T	風をとおすレッスン	田中真知	創元社	2023/08
039450	367W	考えたことある?性的同意	ピート・ワリス,	子どもの未来	2021/09
039433	382H	静かな大地	花崎泰平	岩波書店	2008/02
039451	388M	美しい幻獣生態骨格図鑑	緑川美帆	笠倉出版社	2023/06
039422	404H	数理の窓から世界を読みとく	初田哲男	岩波書店	2021/11
039448	40702	本当はおもしろい中学入試の理科	尾嶋好美	大和書房	2023/07
039441	480S	ZOOLOGY	スミノニアン協会	東京書籍	2020/07
039442	488B	とことんカラス	BIRDER 編集部 編	文一総合出版	2023/09
039431	493M	傷を愛せるか	宮地尚子	筑摩書房	2022/09
039438	726W	幻獣デザインのための動物解剖学	ウィットラッチ	マール社	2015/11
039449	727Y	アイコンデザインのひみつ	米倉英弘	翔泳社	2023/06
039440	751M	粘土でつくる空想生物	松岡ミチヒロ	ホーランジャパン	2018/09



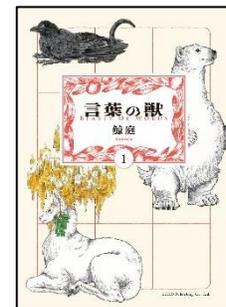
76 回生美術 ことばのけもの



2年生はこれから3学期にかけて、自分が気になることばを1つ選び、そのことばから架空のけものをイメージし、実際に造形物をつくるという授業が始まりました。1回目の授業のあった11月16日は、ことばを採集するために図書館に！考えてみれば図書館は「ことばの海」です。今回は特にことばに関する本をテーブルに並べて見てもらいました。どんなことばが選ばれたのか知るのも楽しみです。

2回目の11月30日は、どんなけものをつくるかを考えるヒントを得るための資料を準備する予定です。

岩本先生がインスピレーションを受けたマンガがこれです。『言葉の獣』（鯨庭作 リイド社）。主人公の女の



子は、言葉が獣に見えるのです。図書館に2巻まで入っていますが、WEBでも一部読めますよ。

今後のブックカフェ予定

12月4日(月) 放課後 校長先生尚、12月中に

渡邊先生と文房具の話

松本先生と数学談義

篠塚先生イチオシ映画鑑賞会

を予定しています。参加してね。

図書委員会新企画 ブックカフェ報告

Q. なぜドイツの教育を研究したのですか？

A. 「はじめは、学校の先生になりたいかったのですが、先生を教える先生もいいなあ」と思い、大学で教育学を学びました。ドイツに着目したのは、戦前日本はドイツをお手本にして国の制度を作っていたから、日本は戦争に突入してしまったのでは？と負の側面から興味を抱いたからです。結果今は、夢がかなって、教員養成大学である東京学芸大学で先生をしています。」

今回のお題は、「日本の学校は世界一、ただし中学校まで」（村上がざっくりとまとめました。）

その国の教育が優れているかを知るためには、比較が必要です。比較には時間軸でみる歴史比較、空間軸で見る国際比較という方法があるそうです。今回、校長先生が取り上げた本は、『日本の教育はダメじゃない：国際比較データで問いなおす』小松 光 / ジェルミー・ラプリー 著 | 筑摩書房（ちくま新書）。教育に関する国際的な調査といえば、理数科目をどのくらい理解できているか学習到達度（主に知識・技能）を調べるTIMSSと、知識や技能をどれだけ実際に活用できるかが身についているかが問われるPISA「国際学習到達度調査」が世の中の的には知られています。このどちらの結果からも、実は日本はトップグループなんですって！しかもそれでいて、日本の子どもたちがものすごく勉強しているわけでもない。親の収入と子どもの学力に相関関係は確かにあるけれど、標準的な範囲にすぎず、塾通いが成績を押し上げているとも現時点では言えない。外国と比較すると日本の子どもたちの健康状態も極めて良い。（体育と給食のおかげ!?)

不登校の数は増加は看過できないにしても、諸外国では学校をドロップアウトしてしまう子どもの数がずっと多い。日本は96%が高校を卒業していますが、アメリカでは85%。日本の教育について、海外の研究者は、「日本の学校はクラス単位で、仲間意識を大切にしている。その一方、特に中学になると競争主義が強くなる。この相反する特徴はいったいどうやって共存しているのか？」と首をひねっています。これは、校長先生も興味深い点だそうです。

どうやら日本の教育は世界で稀にみる成功を収めている…らしい。それなのに高校生・大学生となると、そうとは言えない…という話は次回のブックカフェに続きます。次回は12月4日(月)の放課後です。今回参加できなかった方も、ぜひ気軽にどうぞ！

